

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	釧路市音別町認知症高齢者グループホーム(そら)	評価実施年月日	平成22年2月
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年3月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	誰もが人間らしく当たり前の生活が出切るための支援を行う 家族・地域住民とのつながりを大切に、その共働により継続できるNPOの存在を 広める 介護予防に取り組み、住民ができる限り自立性をもって地域で生活をしていくための支援を行う という独自の理念を持っている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	サービス担当者会議、ミーティング、日々のコミュニケーションを通して、施設長と職員は理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。 また、いつでも見られるよう、法人の理念をスタッフルームに掲示している。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族懇談会や運営推進会議にて、地域での活動や取り組み等を報告させていただいており、出席していただいている方々からご意見をいただいている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	施設長や職員は外出先で地域の方々と会った時には挨拶をしたり、気軽に声を掛けていただいている。利用者の事を知っている住民を多いため、利用者にも気軽に話しかけていただいたり、訪ねてくれる事もある。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	運営推進会議には、町内会、老人会、婦人会、ボランティア協会の代表者に毎回出席していただいたり、幼稚園の行事への参加や大正琴サークル、小学生の慰問、文化祭など町の行事などにも積極的に参加させていただいており、幅広い世代との交流を持つことができている。	
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議の場や、地域包括支援センター、社会福祉協議会の方々と話し合う機会を設けたり、作っていただいている。	3月24日に音別町社会福祉協議会主催の家族介護教室に講師として参加させていただくことになっており、そこで地域住民の方々に認知症ケアについて、グループホームについて、というテーマでお話をさせていただくことになっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常の関わりの中で、不満や苦情に結びつくような事があれば、職員間やご家族と相談し、解決に向けた対応を取っている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	来所されるご家族にはその都度、暮らしぶりを報告し、遠方のご家族には手紙や写真を送ったり、電話で状況報告をしている。また、利用者の所持金は、毎月、領収証と出納帳のコピーを送付し、使い道を明らかにしている。職員の異動についても随時報告している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族から相談や苦情(苦情に繋がること)があれば、その場で十分話し合い、ご家族が納得されるような対応を取っている。また、苦情があった際は苦情記録に記入し、問題解決のため、個別に指導したり、ミーティングなどで周知している。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営に関する意見や要望があればミーティング時に話し合ったり、個別に相談を受け、すぐに改善できることに関しては改善し、すぐに改善ができないようなことに関しては事業所間の代表者会議の議題に挙げ、改善に向けての話し合いを行い、実際に現場で働く職員の意見や要望を反映できる体制を取っている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	急な勤務変更や利用者の急変時等にも対応できるよう職員を確保している。また、利用者の心身の状態に応じて勤務時間の延長、人員の増加など、柔軟な勤務体制が取れるよう配慮している。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	運営者は、異動や離職による職員の入れ替えを最小限に止め、利用者への影響がなるべくないように配慮をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内で毎年計画を立て、職員研修を実施している。職員の経験年数、力量に応じて新人研修、中級者研修、上級者研修と段階を設けたり、介護技術の向上を目的に、介護技術研修も行っている。</p> <p>また、外部から講師を招き、メンタルヘルス、リスクマネジメント等の研修も実施している他、外部の研修にも積極的に参加できるよう配慮している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム連絡協議会道東ブロックで行っている研修会や勉強会に参加し、他のグループホームとの交流や情報交換を行う機会を設けている。</p> <p>また、音別地区介護支援専門員連絡会議に参加し、地域の同業者とも情報交換を行っている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>利用者の重度化による職員の身体的・精神的な負担や不安の軽減の為、身体介護技術研修や介護職のための医療知識講習を行い、知識を身に付ける事で少しでも負担を解消できるよう取り組んだり、外部のカウンセラーによるカウンセリングを受けられる体制がある。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者は、施設長、職員との個人面談や日々のコミュニケーションを通して目標や課題を挙げてもらい、また、前回の目標、課題達成に向けての取り組み状況を報告してもらっている。</p> <p>その際に、更なるステップに繋がるよう助言を行ったり、目標を指し示すなど常に向上心を持って働ける環境づくりに努めている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居申し込み及び入居についての相談は地域包括支援センターが窓口となっており、施設長も参加する入居者判定会議にて入居者が決定している。</p> <p>入居決定後には施設長(ケアマネジャー)、介護主任(ケアマネジャー)が何度か自宅、または入院先・入所先等を訪問し、本人・ご家族と面談を行い、困っていること、要望、意向等の確認、身体・精神状況の把握に努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p style="text-align: center;">"</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期相談は地域包括支援センターの方で実施しているが、地域包括支援センターのケアマネジャーや担当ケアマネジャーらと情報交換をするなど連携を取っている。		入居者判定会議には地域包括支援センターの職員も出席し、現在受けているサービス(通所介護、訪問介護等)も考慮しながらグループホームでのケアが必要な状態かどうか検討した上で入居者を決定している。
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人が安心して生活できるよう、入居前に本人・ご家族に生活暦、なじみの生活の仕方、意向、得意な事等を聞き取りし、ケアマネジャーを中心に介護スタッフとも協議しながら、その人らしく生活できる環境づくりをしている。 また、小さい町のため顔見知りの利用者、スタッフがいるケースがほとんどなので、そこまっかかけ作りにうまく活用している。		入居前にホームの雰囲気を感じてもらえるよう、見学がてら利用者と一緒にお茶の時間を過ごしていただいたり、ご家族と一緒にホームの行事に参加していただいている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者と職員が一緒に話をしながらお茶を飲んだり、テレビを見て過ごすなど家庭的雰囲気を大切にしている。 また、昔から培われている生活の知恵などを職員が学ぶことも多く、お互いに支えあう関係が築かれている。		畑作業では、職員が利用者から、土作りから苗の植え方まで教えていただきながら一緒に作業を行っている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	より良いケアができるよう、ご家族にも相談しご協力をいただいている。 また、ご家族がいつでも気軽に面会に訪れることができるように普段からコミュニケーションを大切にし、行事への参加や受診の際の付き添いもお願いしている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族が面会に来られた際、会話が円滑に進まないようであれば職員も同席し、楽しいひとときになるよう配慮している。 また、遠方のご家族には電話で本人と話ができるよう支援したり、毎月写真を送り、利用者の様子を伝えている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	居室にはなるべく馴染みの家具や小物類を持ち込んでいただいている。 また、友人やご家族の訪問も歓迎している。 昔から利用している馴染みの商店、美容室等も継続して利用していただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気の合う利用者同士を同テーブルに、またトラブルが起きそうな利用者同士は離すなどの座席工夫や、相性を考慮した外出支援など、お互いのコミュニケーションが取りやすい環境づくりに配慮している。		トラブルが発生しそうな利用者同士も、お互いの共通点を見つけたり、何かのきっかけで仲良くなる事も考えられるので、状況を見ながらコミュニケーションを図れる機会を積極的に作る。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居された利用者ご本人やご家族が遊びに来て下さる事もあり、ホームとしても歓迎している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員が利用者とのコミュニケーションを図る中で常に利用者の思いや意向を汲み取るよう配慮している。スタッフが聞き取った情報は、サービス担当者会議にて話し合わせ、ケアプランとして実践されている。		重度化により、本当に「本人本位」のケアができていのか考えさせられる事もあり、重度化における「本人本位」は常に課題となっている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に本人及びご家族と面談を行って基本情報やアセスメントチャートを作成し、情報を把握できるよう努めている。 また、入居後もご家族が来所された際に聴き取りをして利用者が「自分らしく」生活できるよう情報を得ている。		センター方式を導入しており、利用者の生活暦等の他、ご家族の意見・要望も取り入れながらケアに反映している。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者について気が付いた事や変化があった時には連絡事項や申し送りに記載し、全職員に情報を周知している。 また、介護職員がそれぞれ1名の利用者を担当し、毎月サービス担当者会議に議案を挙げ、それについて皆で検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人・ご家族からのご意見、介護主任・介護職員・准看護師からの意見、定期受診している病院の医師・看護師からの意見・助言等を反映してケアプランを作成している。		法人各事業所のケアマネジャーが集まり、資質向上のためケアプラン検討会を3ヶ月に1回開催し、ケアプランについての意見交換を実施している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月サービス担当者会議を開催し、必要に応じてケアプランの見直しや変更を行っている。 また、日常的に介護職員からの気付きなどをケアプランに反映できるよう、検討してほしい事項を記入してもらい、サービス担当者会議にて話し合いを行っている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録は個別にファイルしており、特記事項には日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を記録している他、重要な情報などは申し送りや連絡事項に記載し、迅速に情報の共有ができるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	福祉有償運送事業を実施しており、グループホームの利用者以外にも地域の寝たきり高齢者、認知症高齢者の移送、病院への付添介助等も必要に応じて行うなど、地域のニーズに対応している。 また、介護予防のためのパワーリハビリテーション事業も実施しており、利用者の重度化予防に取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議に民生委員やボランティア協会、老人会、婦人会の代表の方が出席していただけることによって、利用者の情報を共有でき、協力しながら支援している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	音別地区介護支援専門員連絡会議にて、地域包括支援センター、社会福祉協議会、特別養護老人ホームのケアマネージャーと、現在の利用者の状況等の相談など、現状に見合ったサービスが他にないか話し合う機会を設けている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	当グループホームは市の指定管理者のため、地域包括支援センターとは関わりを持つ機会が多く、日常的に利用者についての相談もできる体制ができている。 また、運営推進会議にも毎回出席していただき、具体的な助言等をいただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	音別診療所と協力医療機関の関係にあるため、いつでも利用者の健康状態等の報告・相談をし、具体的な助言等をいただける状態にある。 また、他にかかりつけ医を持っている方で本人・ご家族が希望される場合には、入所後も引き続きかけられるよう支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	利用者の中で数名、町外の精神科にかかってらっしゃる方がおり、必要に応じて電話で症状や服薬についての相談をしたり、受診時には対応についての相談もできる状態にある。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	当事業所には准看護師が1名、法人内にも正看護師が4名、准看護師が1名在籍しており、利用者の状態について相談できる体制にある。 また、協力医療機関である音別診療所の看護師とは24時間、365日連絡・相談ができる状態にあり、気軽に相談させていただいている。		法人内で、看護師による「介護職のための医療知識講習」を年に1度開催しており、高齢者に多い疾患についての対応の仕方や、利用者の病状についての相談、急変時の対応などについて学ぶ機会がある。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には職員も同行し、利用者の情報を提供している。 入院中もこまめに病院側と連絡を取り合って経過や状況などの情報交換を行い、早期退院に向けて連携に努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」の説明をしており、病状の悪化時や身体機能が低下してきた場合にはご家族と話し合い、ターミナルケアについて本人及びご家族の意向を覚書として文書で取り交わしている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ターミナルケアを行うにあたり、受診時にご家族も一緒に医師と話し合った上で、今後のケア方針や、グループホームで対応できる事できない事を話し合い、覚書を取り交わしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>入居時は環境の変化によるダメージが最小限に抑えられるよう、事前に情報収集し、ご家族にも協力していただくなど、自然にグループホームでの生活に馴染んでいただけるよう配慮している。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>トイレ誘導などはプライバシーに配慮して他利用者に分からないように声掛けしたり、さりげなく席を立ててもらいトイレへ誘導するなどの対応を取るようになっている。また、トイレ介助の際は了解を得てから進め、プライドを傷つけないよう配慮している。その他、プライバシーに関わる情報は口頭ではなく書面にて申し送りしている。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している。</p>	<p>利用者の希望や思いを受け入れ、共感し、利用者一人ひとりにあった対応をしている。説得ではなく納得できるような声掛けをし、それでも納得できない場合にはしつこい声掛けはせず、時間を置いて声掛けをしたり、他の職員に代わってもらうなどして、納得しながら暮らせるように支援している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>その日の利用者の状態や、天候、行事などを考慮しながら1日のおおまかな予定を立てているが、利用者の希望に応じて柔軟に対応できるようにしている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>起床時は、利用者に応じた身だしなみの支援を行っている。行事の際には、よそ行きの服を着て、化粧などおしゃれをして出掛けたり、理美容院などは馴染みの店を利用したり、利用者の希望に合わせて職員が髪染めを行ったりしている。また、日常生活でも、食べこぼし等で衣服が汚れた場合には、都度さりげない着替えの支援や、昼寝の後の整髪など日頃の身だしなみの支援をしている。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>職員と利用者が一緒に、和やかな雰囲気の中で食事をしている。また、利用者の好みや栄養バランスを考え、利用者の意見なども取り入れて献立を考え、一緒に食材の買出し、調理などして食事の準備をしている。後片付けも一緒に行い、利用者のペースや能力に応じて役割分担ができており、積極的に参加できている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	利用者と一緒に買物に行き、好みの飲み物やおやつを選んでいただいている。また、ご家族が個別に差し入れを持って会いに来ていただいた際には、居室で一緒に食べながら団樂を楽しめるよう支援している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見て声掛け・誘導を行っている。また、できる限り布パンツで対応しているが、利用者の状態に応じて紙パンツ、紙おむつ、パット類を使い分けている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回程度のペースで入浴できるようにしており、曜日や時間帯は決めていない。入浴中はマンツーマンで関わるため、コミュニケーションを積極的に取り、利用者に応じた入浴の習慣(洗い方、湯加減、入浴時間等)を大事に支援している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	安心して眠れるよう本人の希望に合わせ、居室の戸を開けておいたり、電気を付けておいたり等して対応している。また、眠れない利用者は無理に寝かせようとせず、居間で過ごしていただいたり、居室でテレビを観たり等好きな時間を過ごしていただき、頃合を見計らって就寝の声掛けを行っている。日中、夜間の様子は細かく記録し、睡眠状況に応じて、昼寝の声掛けをしたり、日中の運動量を増やしたりするなどして対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事仕事や畑仕事など、得意なことや好きなことができるように支援している。実際に仕事ができない方にも、持っている知識を教えていただいている。居間では、好きな番組を観て過ごしていただいたり、民謡や童謡など聴き馴染みのある音楽を聴いていただいたり、とりラックスして過ごせるような雰囲気を作っている。ドライブや買物など、外出支援も積極的に行っている。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者のお小遣いは事務所の金庫に保管しており、外出時に本人に財布を渡して自分で支払ができるよう働きかけをしている。自分で支払ができない場合でも、本人に財布を渡し、確認を取った上で、財布の中から職員が支払をしている。自分でお金を使える機会を設ける為に、買物や外食を定期的に行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買物、散歩、ドライブ等、気分転換ができるよう、積極的に外出支援を行っている。重度化した利用者にも、季節を感じてもらえるように短距離のドライブに付き合っている。風を感じてもらえるようにホームの周りを車椅子で散歩していただけるよう支援している。		利用者から、新聞の折込チラシを見ながら、回転寿司が食べたいとの希望があったため、誕生月にお祝いを兼ねて外食ツアーを計画している。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者・ご家族と相談し、以前住んでいた自宅やご家族の家に行ったり、お寺へお参りに行くなどの支援をしている。		ご家族も同行してのドライブ等外出支援はまだ実現できていないので、日程や時間を合わせて実施したい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	利用者から電話を掛けたいと申し出があった時は、職員が電話を掛けて利用者となり、居室でゆっくり話ができるよう支援している。家族や知人から荷物が届いた時にはお礼の電話を掛けたり、職員による近況報告の際にも本人と代わって、話ができるよう支援している。また、請求書送付時にも手紙や写真等を同封し、利用者の近況を報告している。		文字の書けない利用者はスタッフが代筆する等して、1～2ヶ月に1度、絵手紙等で近況報告できるような支援をしていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	ご家族や友人が訪ねてきてくれた時は、居間だけではなく、居室にも案内し、ゆっくり過ごしてもらえるよう配慮している。また、お茶やお菓子でもてなし、スタッフもご家族や友人に対して気軽に声を掛けさせていただいている。		遠方からお見えになったご家族には、利用者の居室に宿泊していただいている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設長、職員は外部研修会や法人内研修会で身体拘束を含む高齢者虐待防止関連法について学び、また、ミーティングや個人面談時にも繰り返し身体拘束を行う事による弊害について話をする事で、基本的に身体拘束を行わないケアを実践している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間帯や全員での外出時以外は施錠せず、帰宅願望のある利用者に対してもスタッフが付き添い外出する等して対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日勤帯はスタッフ3名体制だが、業務や介助のためホールを離れてしまう事もある。しかし、常に1名はホールに残るようにお互いに声を掛けながら連携し、利用者の所在や様子を把握できるようにしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個人の持ち物で危険と判断されるような物品は、本人・ご家族と相談の上、ホームで預かるか持ち帰っていただく等の判断をさせていただいている。刃物等ホーム内にある危険な物は利用者の目の届かない場所に保管する等配慮している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日頃からスタッフにヒヤリ・ハットを数多く出してもらい、スタッフ会議等で話し合う事で事故を未然に防げるよう取り組んでいる。また、実際に事故が起きてしまった場合には、事故報告書に事故が起きた時の状況、その際の対応、再発防止に向けての方策等を具体的に記入し、併せてスタッフ会議等で話し合っている。		毎年、法人内研修で、保険会社の方に来ていただき、リスクマネジメントについて学ぶ機会がある。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	全スタッフが救命講習を受講している。また、緊急時の対応マニュアルやフローチャートを作成しており、協力医療機関とも連携を取り、利用者の急変時や事故発生時の取り決めを交わしている。		毎年、法人看護師による医療講習を行っている。書籍等を購入し、職員が読めるようにしている。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	毎年、避難訓練、消火器訓練を実施しており、緊急対応マニュアルや緊急時連絡網を作成している。		自然災害に対する取り決めが不十分な為、今後マニュアルの作成が必要。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	病気や事故に対するリスクについては入居時及び病状悪化時に施設長がご家族へ説明し了承していただいている。また、日常生活で気が付いた事についても、その都度ご家族へ説明を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		<p>口腔機能や嚥下機能の維持・向上のため、毎日嚥下体操を行っている。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		<p>感染症マニュアルを作成しており、毎年、インフルエンザ、ノロウイルスが流行する前にミーティング等でマニュアル内容の再確認を行っている。また、冬期間は居間に加湿器を設置し、各居室には濡れタオルを掛ける等の乾燥対策を行っている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材は賞味期限内に使い切り、作り置きはしないようにしている。おしぼりや布巾、まな板などの調理器具は除菌・漂白している。台所内は清潔に保たれ、生ゴミの処理も毎日行っている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>夏場には、玄関前にプランターを置くなど家庭的な雰囲気を作り、近隣の人等にも親しみを持ってもらえるよう工夫している。ただしスロープには何も置かず、歩行できる利用者は手摺につかまりやすく、車椅子を使用している利用者も移動しやすいようにしている。また、テラスからも出入りできるよう、ベンチを置いたり、スロープを設置している。</p>		<p>テラスのスロープに手摺を付け、安全に移動できるようにしたい。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間には、写真を展示したり、季節の行時ごとに飾り付けをしたり、季節に応じて利用者と職員と一緒に作成した絵等の作品を飾っている他、利用者が個人的に使用しているクッションや座布団、椅子等自分の使い慣れた馴染みの物も置いてあり、利用者それぞれが自分の好きなように過ごしている。</p>		<p>玄関の引き戸は昨年改善のご指摘を受け、勢いよく閉まらないように改善済み。玄関にチャイムも設置。今後、利用者にもっと選択肢を持ってもらえるよう、更にくつろげるスペースを広げていきたい。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>座席は利用者の相性を考慮しながら決めているが、都度、利用者が好きな所に座る事ができるよう柔軟に対応している。</p>		<p>一人ひとりの居場所づくりのためにも、更にくつろげるスペースを広げていきたい。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>基本的には馴染みの家具や物品、自分で作成した絵や作品、写真等が飾られているが、それらが無い事で安心して眠る事ができる利用者もいるため、その利用者に応じた空間づくりをしている。</p>		<p>歩行不安定な利用者は夜間センサーマットを利用したり、手摺になる物を設置する、ベッドの配置を工夫する等、安全面にも配慮している。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみが無いよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>トイレ介助後や排便処理後には窓を開けたり消臭スプレーを使用し、汚物はビニール袋に入れ口を縛って捨てる等、臭いの対策に努めている。また、居室の室温が低い時は戸を開けておいて居間との温度差がないようにしたり、天気の良い日、暖かい日は空気の入替えのため、窓を開けるようにしている。</p>		<p>冬期間は、加湿器を設置したり、入浴の際には脱衣所と浴室の温度差にも配慮している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>ホーム内には利便性の違った4箇所のトイレがあり、個々の身体状況に合わせて使用している。</p> <p>また、各所に手摺やナースコールがあり、手摺がない場所には椅子を設置して手摺代わりとしたり、家具等の配置で補う等の対策を取っている。</p> <p>入浴の際も回転盤や踏み台を使用するなど、一人ひとりの身体機能に応じた支援をしている。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>個々の能力に応じたケア方法で、なるべく自立して暮らせるよう支援している。</p> <p>また、センター方式にて、本人の解る事・解らない事、できる事・できない事を把握し、自然な形でフォローしている。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>テラスはホームに通じており、利用者が洗濯物を干せるよう物干しを利用者の手の届く高さに設置している。</p> <p>夏場は椅子やテーブルを出して日光浴やお茶の時間を過ごしている。</p> <p>テラスの下には菜園があり、野菜づくりや収穫を楽しんでいる。</p>	

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>毎月、サービス担当者会議にて、利用者のモニタリングを実施し、思いや願い、意向等が汲めているか話し合い、思いを大切に支援を行っている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>お茶・おやつや食事時間など、利用者と職員と一緒に過ごしている。また、それ以外の時間も、最低でも職員1名は利用者と一緒に過ごすようにしている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>利用者一人ひとりのペースに合わせて支援している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>家事仕事やレクリエーション等、馴染みのある事や得意な事をしていただく事で自信や達成感を得る事ができ、笑顔や満足そうな表情を引き出す事ができている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>積極的にドライブや買物、散歩、外食等に出掛け、外出できる機会を設けている。また、1人外出する利用者にも職員が同行している。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>毎日の健康管理や定期受診、看護師への相談等の体制を整え、体調の変化や異変の早期発見、早期受診に繋げている。また、利用者が不安を感じている時は、受け入れ、共感の姿勢で対応している。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>利用者の状態に応じて職員を増員したり、時間帯を変更する等、柔軟な勤務体制を取ったり、ご家族にも協力していただき、安心して暮らせるよう支援している。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p> <p>来所された際は、積極的にご家族と会話し、利用者の状況等を説明したり、ご意見を伺うようにしている。また、ご家族から相談がある場合には施設長(ケアマネジャー)と話し合う機会を設けている。ただし、今年度に入ってから入所された方が3名いらっしゃるの、その方々とはまだ十分な信頼関係を築いていない。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>	<p>利用者の友人等が訪ねてきてくれる頻度は少ないが、ご家族や退職した職員が数日に1度位の割合で訪ねてきてくれている。 また、定期的に地域住民のボランティアや保育園、幼稚園児、小学生との交流の機会を設けている。</p>
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない</p>	<p>運営推進会議を通して、意見や助言、協力等の支援をしてくださる等、グループホームへの理解が地域に少しずつ広がっているように感じる。 また、町内で利用者、職員に対して気軽に声を掛けていただく事が多くなってきており、グループホームの認知度が上がってきているように感じている。</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>	<p>職員同士が協力し合う事で全員が気持ちよく働けるような体制ができており、事業所側も働きやすい環境を整備する等の配慮をしている。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>	<p>規制をなるべく外し、行動も制限しないようにする事によって、入居当初帰りたくてよく外まで行っていた利用者も「ここに入れてもらって良かった」と言ってもらえるまでになり、他の利用者も満足して生活していただけていると思っている。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>	<p>施設長や介護主任、介護職員が日常的にご家族と連絡を取り合ったり、来所された際にコミュニケーションを取る等、納得・満足していただけるような対応を心掛けている。</p>

<p>【特に力を入れている点・アピールしたい点】</p> <p>(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)</p>	<p>いつも笑い声が絶えない楽しいホームです。 さらに利用者楽しく自由に生活していただけるよう、なるべく規制を外し、行動の制限をしないよう心掛けています。 ホーム内のくつろげる空間もさらに拡充し利用者の選択肢を増やしていけるよう職員一同意見を出し合いながら頑張っています。 また、職員にとっても働きやすい職場であるために、メンタルヘルス等も取り入れ、いきいきと働ける事で介護の質のさらなる向上を目指しています。</p>
--	---